

知っておきたい 診療技術

歯科口腔外科の 「口腔外科」って何？

「口腔外科」って何？そんな疑問を持ったことはないでしょうか。歯科にも内科と同じように様々な専門分野があります。口腔外科は歯科の専門分野の一つで、ほかにも保存科・補綴科・矯正科・小児歯科などがあり、地域の歯科医院の先生方はこれらの専門分野のエキスパートといえます。

口腔外科では主に、親知らず(智歯)の抜歯・顎関節症・デンタルインプラント・顎骨骨折・歯性炎症・口腔癌・顎変形症などの治療を行っています。今回は

専門分野例

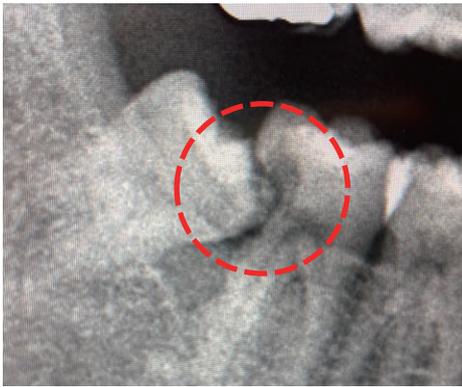
- *保存科…虫歯・歯周病を治す
- *補綴科…被せ物・入れ歯等で機能と見た目を回復させる
- *矯正科…歯並びを治す
- *小児歯科…子どもの歯科診療など

その中の「親知らずの抜歯」についてご紹介します。

親知らず(智歯)の抜歯

なぜ、親知らずは抜歯した方が良いといわれるのでしょうか。

正常に生えることができません。顎の骨に埋まっている歯を「埋伏歯」といいます。親知らずが埋伏していたり、半分埋まっていたり(半埋伏)、斜めに生えていたり(近心傾斜)、横向きに生えていたり(水平埋伏)する場合は、25歳を過ぎると「う蝕(虫歯)」罹患率が高くなります。また、親知らず周囲の炎症(智歯周囲炎)に関しても、25歳以降は罹患率が2倍になるといわれています。



斜めに生えた親知らず。手前の歯(第二大臼歯)との間が虫歯になっています。

ます。その他に、35歳を過ぎると第二大臼歯(親知らずの一つ手前の歯)の歯根を吸収するリスクが高くなるともいわれています。そのため当院では、患者さんの親知らずの状態によって、抜歯の判断をしています。

しかしながら、「親知らずを抜くのが大変だった」顎が取れそうだった」という話を聞いた「そもそも歯医者は怖い」という声をよくお聞きします。そのような方には、通常の局所麻酔に静脈内鎮静法を併用し、過度な緊張を取り除いた状態で治療が受けられる方法をお勧めしています。

「静脈内鎮静法」とは？

静脈内鎮静法は、点滴により鎮静薬や静脈麻酔薬を投与する方法です。薬の効果で、意識を失うことなく、精神的・肉体的にリラックスすることができ、意識があり、自分で呼吸も行うことができます。また、静脈内鎮静法には健忘効果(治療中の記憶がないこと)が認められています。



親知らずの抜歯

歯医者さんが怖いという歯科治療恐怖症の方以外にも、より安全に治療を行うため、静脈内鎮静法を併用することがあります。

- ・歯科治療による嘔吐反射(異常絞扼反射)を起こしやすい方
- ・基礎疾患がありリスクの高い方
- ・過去に過呼吸(過換気発作)を起こしたことがある方
- ・過度の緊張による血圧低下、ふらつき、失神など(血管迷走神経反射)を起こしたことがある方

親知らずの抜歯をしたいが恐怖心があるという方は、ぜひ一度、当院歯科口腔外科にご相談ください。

(歯科口腔外科部長 小笠原邦茂)